

「東山梨教育研究」発刊にあたって

東山梨地区教育委員会連合会
会 長 日 原 吉 日 出

昭和38年発刊以来、長い歴史と伝統のある本誌は、その時々々の世相を反映した教育の指針として大きな役割を果たしてまいりました。

昨今、教育に関わる者にとって、まさに、激動の時代と言わざるを得ません。教育の新たな胎動を感じさせる半世紀ぶりの教育基本法の大改正、教育再生会議のスタートの一方で、いじめ等による自殺の連鎖等々、深刻な、また、杞憂すべき問題が山積しております。

学校の現場では、学力向上のための基礎基本の定着、総合的な学習の充実、児童生徒の安全確保、小学校における英語活動の充実などが強く求められています。また、子どもの社会規範、道徳心は希薄化し、教師の指導する領域が飛躍的に増えるとともに、保護者の学校・教師に対する要求、価値観も多様化し、教師は一つの方向性をもって指導することができにくくなってきています。

このように、教師は何をよりどころに教育を行っていったらいいか見えにくくなってきています。その一方で、教師の責任がより強く求められている現実があります。このような時こそ、現実を直視し、今まで以上に子どもたちをつぶさに見ていただき、きめ細かな教育活動に取り組んでいただきたいと願います。

そのためにも、「やまなしの教育基本計画」の基本理念である「郷土を愛し 未来を拓く やまなしの教育」を実現するための教育行政等重点施策に位置づけられています、○人間形成の基礎を培う「家庭の教育力の向上」 ○確かな学力と伝え合う力を育てる「国語力の向上」 ○豊かな人間性や社会性を培う「心の教育の充実」 ○たくましいからだをつくる「体育・健康教育の充実」 ○豊かな感性や潤いのある生活をはぐくむ「郷土学・文化活動の推進」の諸施策の基本理念に立ち返る必要があるのではないかと考える次第です。今後も東山梨地区教育研究会において具体的な取り組みの推進を熱望いたします。

東山梨地域の教育のために、ますますのご発展を祈念申し上げます。